

Pioneer *sound.vision.soul*

MDLP



MD/チューナー・DSP メインユニット

MEH-P919

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

[異常時の処置]

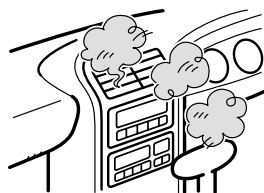
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

はじめに

- 1 各部のなまえ 6
- 2 ご使用になる前に 8
- 3 リモコンの準備 9
- 4 DSPモードを切り換える 9
- 5 本機のリセットについて 10
- 6 フロントパネルの取り扱いについて 10
- 7 セレクションキーの操作について 12

ここだけで

ここだけで読めばすぐ使えます

- 1 聞きたいソース (音源) を選ぶ 14
電源を切る
- 2 内蔵MDのふだんの操作 16
MDを再生する
曲を選ぶ
早送り/早戻しをする
音量を調節する
MDを取り出す
- 3 ラジオのふだんの操作 18
バンドを選ぶ
放送局を選ぶ
音量を調節する
- 4 マルチCDのふだんの操作 20
CDを選ぶ
曲を選ぶ
早送り/早戻しをする
音量を調節する

内蔵MD

内蔵MDでMDを聞く

- 1 モードの切り換えかた 22
- 2 同じ曲を繰り返し聞く 22
- 3 いつもと違う曲順で聞く 23
- 4 聞きたい曲をさがす 23
- 5 曲名を見て聞きたい曲をさがす 24
- 6 MD再生を一時停止する 24
- 7 タイトル表示を切り換える 25

ラジオ

ラジオを聞く

- 1 放送局を1局ずつ記憶させる 26

- 2 記憶させた放送局を呼び出す 27
- 3 モードの切り換えかた 27
- 4 複数の放送局を自動的に記憶させる 28
- 5 放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す 28
- 6 放送局名を選ぶ 29

マルチCD

マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチCDを組み合わせたときのみ)

- 1 聞きたいCDを直接選ぶ 30
- 2 モードの切り換えかた 30
- 3 同じ曲やCDを繰り返し聞く 31
- 4 いつもと違う曲順で聞く 32
- 5 聞きたい曲やCDをさがす 32
- 6 曲名を見て聞きたい曲をさがす 33
- 7 タイトルを見て聞きたいCDをさがす 33
- 8 CD再生を一時停止する 34
- 9 CDのタイトルを記憶させる 34
- 10 CDの音質を調整する 36
- 11 聞きたい曲だけ記憶させておく 37
- 12 記憶させた曲だけ再生する 38
- 13 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す 38
- 14 記憶させた曲をCDごとに記憶から消す 39
- 15 タイトル表示を切り換える 39

1枚型CD

1枚型CDでCDを聞く

(別売の1枚型CDを組み合わせたときのみ)

- 1 1枚型CDのふだんの操作 40
- 2 ファンクションモードの操作 41

マルチMD

マルチMDでMDを聞く

(別売のマルチMDを組み合わせたときのみ)

- 1 マルチMDのふだんの操作 42
- 2 ファンクションモードの操作 43
- 3 タイトル表示を切り換える 43

テレビ

テレビを見る

(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

- 1 テレビのふだんの操作 44
- 2 ファンクションモードの操作 45
- 3 チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す 45

CONTENTS

音の調節

音を調節する

1	DSPについて	46
2	オーディオ調節のポイント	47
3	オーディオ調節モードの切り換えかた	48
4	音場の中心で聞く	49
5	車種に合ったタイムアライメントを選ぶ	49
6	前後左右の音量バランスを調節する	50
7	タイムアライメントを調節する	51
8	ネットワークを調節する前に	52
9	ネットワークを調節する	54
10	サブウーファーを使う	55
11	低い音を出力しないようにする	56
12	オートイコライザーをON/OFFする	57
13	イコライザーカーブを選ぶ	57
14	イコライザーカーブをだまかに補正する	58
15	イコライザーカーブを細かく調節する	58
16	お好みに合った効果をかける	59
17	小音量時の音にメリハリをつける	60
18	イメージに合った演奏会場を再現する	60
19	騒音に合わせて音量を変える	61
20	各ソースの音量の違いをそろえる	62
21	音の歪みを補正する	62
22	オートイコライジングを行う前に	63
23	オートイコライジングを行う	64

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

はじめに

内蔵MDでMDを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

1枚型CDでCDを聞く

マルチMDでMDを聞く

テレビを見る

音を調節する

便利な機能と初期設定

その他(付録)

便利な機能

便利な機能と初期設定

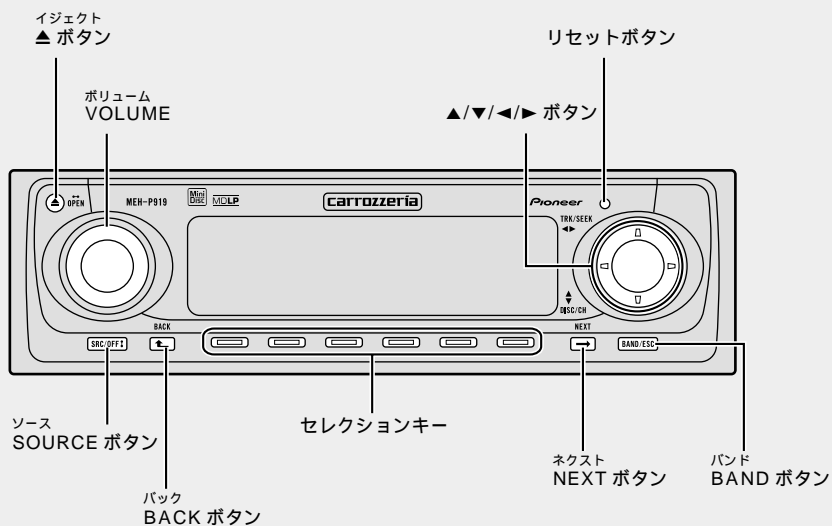
1	瞬時に音量を小さくする	66
2	よく使う機能を直接操作する	66
3	交通情報を受信する	67
4	時計・カレンダーを表示・調節する	68
5	カスタムメニューの切り換えかた	70
6	表示画面を選ぶ	70
7	ディスプレイの明るさを調節する	70
8	夜間のディスプレイの明るさを切り換える	71
9	背景のパターンを選ぶ	71
10	エンタテインメントを表示させる	72
11	初期設定モードの切り換えかた	74
12	リバースモードをON/OFFする	75
13	フィーチャーデモをON/OFFする	75
14	外部機器の音声を聞く	76
15	外部機器の名称を入力する	76
16	ミュート/アッテネートを切り換える	77

その他

その他(付録)

1	MDの正しい使いかた	78
2	故障かな?と思ったら	79
3	こんなメッセージが表示されたら	81
4	保証書とアフターサービス	83
5	おもな仕様	84
6	DSP調整値記入表	86

本体

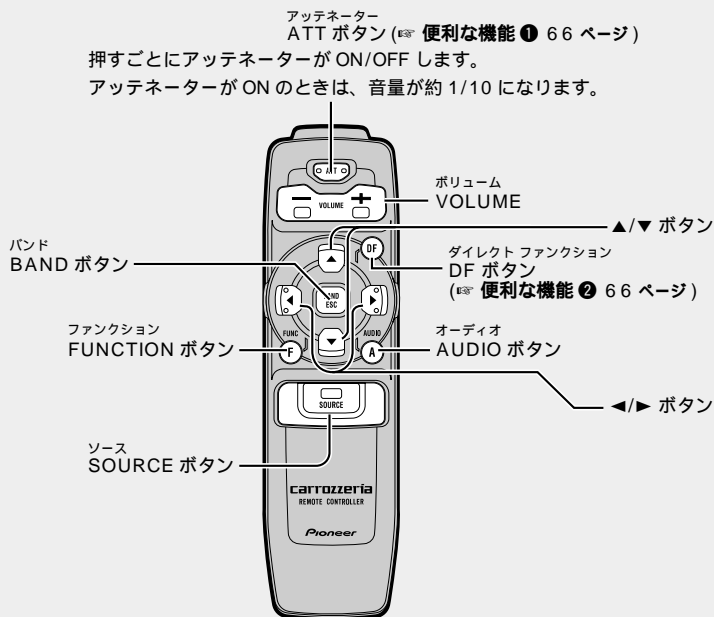


セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変わるボタンです。「セレクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。

リモコン

各ボタンは、本体の同じなまえのボタンと同じ働きをします。



FUNCTION ボタンについて

FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。

(☞ 内蔵 MD ① 22 ページ)

(☞ ラジオ ③ 27 ページ)

(☞ マルチ CD ② 30 ページ)

AUDIO ボタンについて

AUDIO ボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。(☞ 音の調節 ④ 48 ページ)

DF ボタンについて

DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ記憶されている機能を直接操作することができます。内蔵 MD・マルチ CD・1 枚型 CD でポーズ、マルチ MD でリピート、ラジオで BSM、テレビで BSSM を操作することができます。(☞ 便利な機能 ② 66 ページ)

はじめに

2

ご使用になる前に

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

長時間録音された MD の再生について

本機は MDLP に対応しています。長時間録音されている MD も再生することができます。

本機と MDLP に対応していない製品 (MD-P100II など) を組み合わせた場合、その製品では長時間録音されている MD を再生することができません。

MDLP について

MDLP とは、今までお使いになっている MD で、従来の録音できる時間より長く (2 倍、4 倍の時間) 録音することができる圧縮方式です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CD のタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録された CD です。ディスクタイトル面に下記マークのついている CD は、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤーの取扱説明書に記載されている 50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの 2 つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約 30 秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10 秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチが ON (または ACC) のときに本機の電源を OFF にして 5 のボタンを押してください。もう一度押すと、ON になります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源 OFF のときに、各ソースや本機の機能 (エンタテインメント、SFC など) の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに 6 のボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

赤リード線 (アクセサリ電源) は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源を OFF にしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに

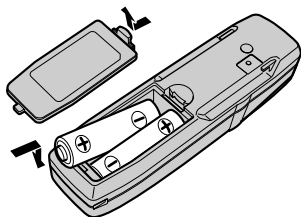
3

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

裏フタを開けて、単4形乾電池 (R03) 2本をセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコン取り扱い上のご注意

リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。

乾電池は、充電しないでください。

リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

メモ

誤ってリモコンの BAND ボタンを押しながら FUNCTION ボタンを押してしまうと、VOLUME、DF ボタン、ATT ボタンが効かなくなります。この場合、リモコンの BAND ボタンを押しながら AUDIO ボタンを押すと、元に戻ります。

はじめに

4

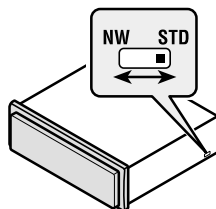
DSP モードを切り換える

本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。初期設定は、スタンダードモードになっています。

1

DSP モードを切り換える

ペン先などで好みのモードに切り換える

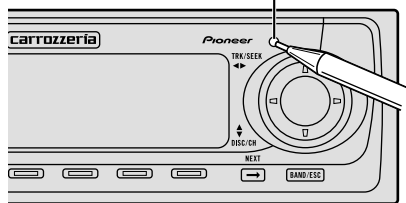


2

本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す

リセットボタン



メモ

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態に戻ります。(E3P はじめに 10 ページ)
リセットボタンを押すことで、設定した DSP モードが有効になります。

はじめに
5

本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後。

本機が正しく動作しないとき。

ディスプレイが正しく表示されないとき。

リセットボタンを押すと、本機の記憶（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

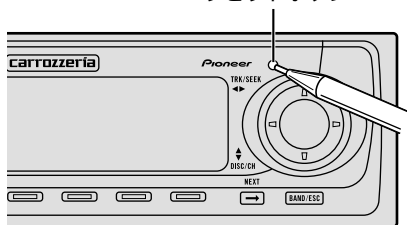
ご注意

本機をリセットする前に、フロントパネルを開けておいてください。（MDを挿入口に差したままにしないでください。）

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す

リセットボタン



メモ

フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

はじめに
6

フロントパネルの取

別売のPCリンクキット「例：CD-PC1」をお使いになるときのために、フロントパネルは取り外すことができますようになっています。



注意

フロントパネルを開けたままで使用しない



禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

取り扱いについて

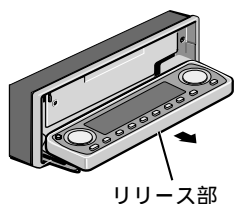
フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

▲ ボタンを 2 秒以上押す
フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

リリース部を持ち、フロントパネルを
手前に引き抜く

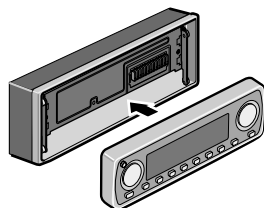


数秒後に中ボタンが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む

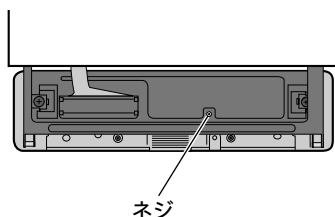


フロントパネルの固定ネジについて

PC リンクキットをお使いにならない場合は、付属のネジで固定してからお使いください。

1 ネジを取り付ける

フロントパネルを開けた状態で、フロントパネルと中ボタンをネジで固定する



メモ

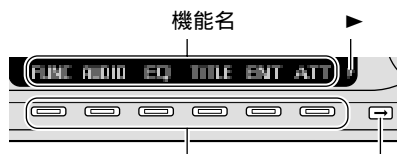
フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
取り外し、取り付けの際に、ボタンやディスプレイを強く持たないでください。
落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。
高温になる場所や直射日光が当たる場所には置かないでください。
ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。表面が侵されることがあります。
分解しないでください。
本体およびフロントパネルの端子部を触らないでください。接触不良の原因となることがあります。
また、端子部が汚れたときは、きれいな乾いた布で拭いてください。

セレクションキーの操作について

この説明書では、ファンクションモードやオーディオ調節モードの操作は、セレクションキーを基本として説明しています。

セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変化するボタンです。「セレクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。また、「▶」表示は、セレクションキーに現在表示されている機能とは別の機能があることをあらわしています。「▶」が表示されているときにNEXTボタンを押すと、セレクションキーの機能を切り換えることができます。



セレクションキー NEXTボタン

この説明書では、「セレクションキー」での操作は表示される機能名をボタン名として説明しています。(例えば、「FUNC」と表示されている「セレクションキー」は、FUNCボタンと言います。)

基本画面について

MDを聞いているときなどの基本画面には、FORM 1とFORM 2の2つの表示方法があります。(☞ 便利な機能 70 ページ)

FORM 1



FORM 2



この説明書では、FORM 1を例に説明していますので、FORM 2を選んでいる場合、「セレクションキー」の表示が一部異なることがあります。

BAND ボタンとBACK ボタンの違いについて

BAND ボタンは、選んでいるモードに関係なく一度で基本画面に戻ることができます。(ラジオやテレビでは、モードを選んでいるときにBAND ボタンを押すと、バンド切り換えになります。)

BACK ボタンは、選んでいるモードを解除し、一つ前のモード(画面)に戻ることができます。

ガイド表示について

この説明書では、各モードの操作についてセレクションキーを基本として説明していますが、機能のON/OFFなど▲/▼/◀/▶ボタンでも操作できるものがあります。▲/▼/◀/▶ボタンでも操作することができるときは、ガイド表示が出ます。



表示の例

内容



▲/▼/◀/▶ ボタンで操作
できます。



▲または▼ ボタンで機能の
ON/OFF ができます。



◀または▶ ボタンで項目を選
ぶことができます。

セレクションキーの操作 (例：内蔵 MD のランダムプレイ)

1 “FUNC” を表示させる

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

FUNC RNDM EQ TITLE ENT ATT ▶

TI PAUSE CLK MENU ▶

FUNC RNDM EQ TITLE ENT ATT ▶ に戻る

2 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

ファンクションモードに切り換わり、セレクションキーの表示も次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN TLIST PAUSE ▶

3 ランダムプレイ設定モードにする

RDM ボタンを押す

ランダムプレイ設定モードに切り換わります。



4 ランダムプレイをONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ランダム再生がONになると、ランプが点灯します。

5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

ファンクションモードが解除されます。

メモ

セレクションキーは、選んだソースやモードによって、切り換わる機能や表示の数が異なります。セレクションキーの表示が出ていないボタンには機能がありません。この場合、そのボタンでは操作することはできません。

ランダムプレイ設定モード中では、▲/▼ボタンでもランダムプレイをON/OFFすることができます。

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。



ソース
SOURCE ボタン

テレビ、1枚型CD、マルチMDを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P777」
1枚型CD	「CDS-P555」
マルチMD	「MD-P100II」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作説明が行われている場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

1 枚型 CD (別売)

テレビ (別売)

ラジオ (FM/AM)

内蔵 MD

マルチ MD (別売)

マルチ CD (別売)

External
(エクスターナルユニット 1) (別売)

External
(エクスターナルユニット 2) (別売)

AUX (外部機器) (別売)

1 枚型 CD に戻る

2 電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

本機の電源が切れます。

メモ

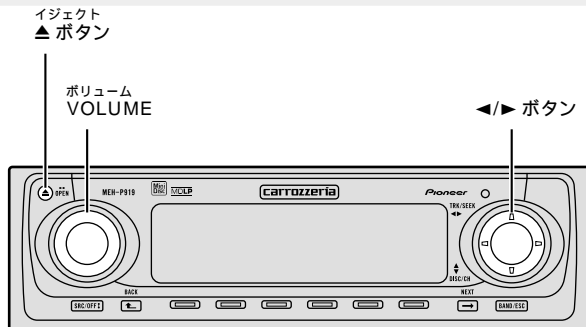
接続していないソースには切り換わりません。CD や MD がセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。

AUX (外部機器) の設定 (☞ 便利な機能⑩ 76 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。

本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。

External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2 台の External (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1、External2 のどちらに切り換えても “External” が表示されます。2 台の External (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1、External2 が自動的に設定されます。

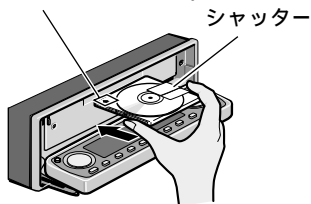
ここだけの操作で、MD を聞くことができます。



1 MD を再生する

▲ ボタンを押して、フロントパネルを開け、MD を MD 挿入口に差し込む

矢印の向きに差し込みます。



MD のラベル面を上にして差し込みます。

確認

MD のシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。

自動的にフロントパネルが閉まり、MD の再生が始まります。

MD をセットしたときや、他のソースから内蔵 MD に切り換えたときなどに、ディスク名および曲名を自動的に 1 回スクロール表示します。

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5 秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5 秒以上押し 続けている間

曲を選んだときに、曲名を自動的に 1 回スクロール表示します。ただし、今聞いている曲の頭出しをしたときには、自動的にスクロール表示しません。

メモ

2 倍長時間録音の MD 再生時は、“× 2” が、4 倍長時間録音の MD 再生時は、“× 4” が表示されます。

長時間再生表示



再生経過時間 曲番号

3 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

音量は、0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。



注意

フロントパネルを開けたままで使用しない



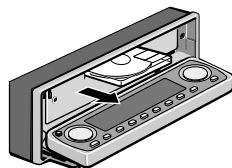
禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

4 MDを取り出してMD再生をやめる

▲ ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きMDが出てきます。



出てきたMDはすぐに取り出して、保管してください。

▲ ボタンを押して、フロントパネルを閉める

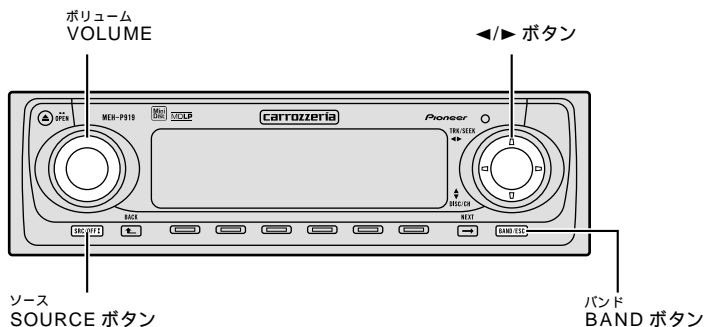
フロントパネルが閉まります。

MD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを開けてください。

メモ

MDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（※ ここだけで● 14ページ）MD挿入口には、MD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。フロントパネルを開いた状態では、セレクションキーで操作することはできません。

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。



1 ソースをラジオにする

SOURCE ボタンを押す

ラジオを受信します。

ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2 → FM-1
に戻る

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(※ ラジオ① ④ 26、28 ページ)

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのまま使いになれます。



3 放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数の放送局を選局するとき
- ◀ : 低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満
自動選局	0.5秒以上

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

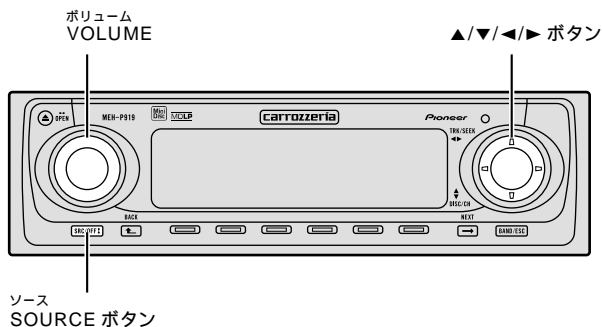
VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき
音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする (🔊 ここだけで🔊 14ページ)

ここだけの操作で、マルチ CD プレーヤーで CD を聞くことができます。



1 ソースを マルチ CD にする

SOURCE ボタンを押す
マルチ CD の再生が始まります。

2 聞きたい CD を選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : 次の CD を選ぶとき
- ▼ : 前の CD を選ぶとき

メモ

マルチ CD が準備動作 (CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると“Ready”が表示されます。

マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、“No MAG”が表示されます。



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

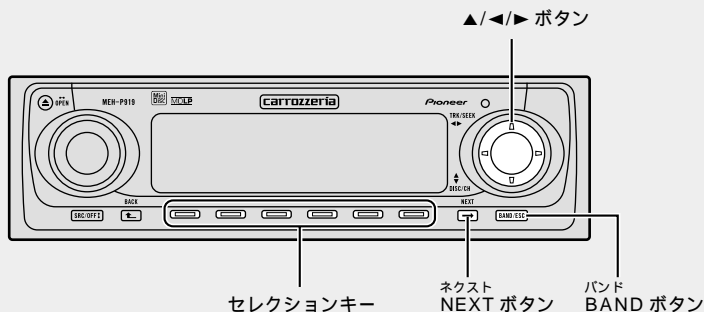
VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき

音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチCD再生を やめる

他のソースに切り換えるか、電源
OFFにする (E3 ここだけで① 14 ページ)



内蔵MD
1

モードの切り換えかた

ぶだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → PAUSE → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

内蔵MD
2

同じ曲を繰り返し聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 リピートプレイ設定モードにする

FUNC ボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 リピート再生を ON にする

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

内蔵 MD

3

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

選曲を MD プレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に
押す

2 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

内蔵 MD

4

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の始めの部分だけを、約 10 秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に
押す

2 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約 10 秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順 1 の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生を OFF にしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

内蔵MD

5

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1

トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2

聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3

聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

内蔵MD

6

MD再生を一時停止する

ポーズ

MD再生を一時停止することができます。

1

ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2

MD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。MDに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

表示をディスク名または曲名に切り換えたときに、隠れているタイトルを自動的に1回スクロール表示します。

ディスクタイトル、トラックタイトルが入力されていない場合、“No title”が表示されます。

本機では、MDの録音方式に関わらずトラックタイトル先頭の「LP:」を表示しません。(▶ はじめに 8 ページ)

(長時間録音されたトラックタイトルの先頭には、「LP:」があらかじめ入力されている場合があります。)

本機は、MDのグループ機能に対応していません。グループ登録されたMDを再生すると、ディスクタイトルはグループ名などを含めた状態で表示されます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

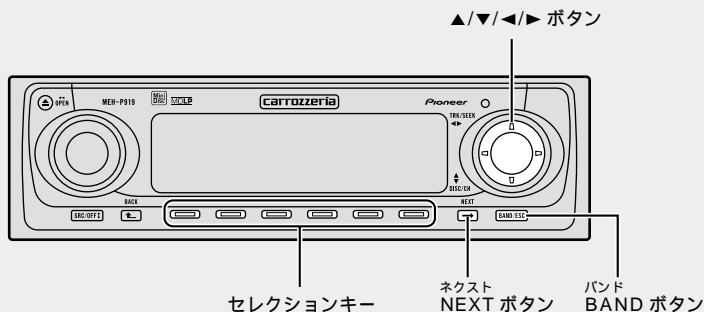
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。

ラジオ
1

放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

1～6のボタンに、お好みの放送局を、1局ずつ手で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(☞ ここだけで④ 18 ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで④ 19 ページ)

3 “1”～“6”を表示する

NEXT ボタンを押す
“1”～“6”が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



4 記憶させる

1～6のボタンの1つを2秒以上押す



押したボタンの番号(記憶番号)が点滅します。

記憶が終わると点滅が終わり、押したボタンに受信中の放送局が記憶されます。

メモ

記憶させた放送局を呼び出すには (☞ ラジオ②)

記憶させた放送局を
呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(18 ここだけで① 18ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

記憶させた放送局を順番に呼び出す

▲または▼ボタンを押す

▲：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき

▼：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき

記憶させた放送局を直接呼び出す

1 ~ 6 のボタンの 1 つを押す

確認

“1” ~ “6” が表示されていないときは、NEXT ボタンで、“1” ~ “6” を表示してから操作してください。



受信中の記憶番号

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを
切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM chLIST

ST.SEL

BSM chLIST に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを
解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM → chLIST → ST.SEL → BSM に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。


ラジオ
4

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6のボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
( ここだけで⑥ 18 ページ)

2 BSM モードにする

FUNC ボタンを押す
BSMモード以外を選んでいる場合は、BSM ボタンを押す。

3 BSM を始める

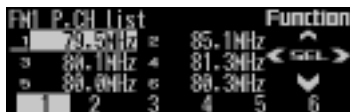
BSM ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



記憶が終わるとステーションリストモードに切り換わり、1のボタンに記憶した放送局を受信します。


4 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す
選んだ放送局を受信します。



いま受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

メモ

受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)の略です。
記憶させた放送局を呼び出すには ( ラジオ⑥ 27 ページ)

ラジオ
5

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6のボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中から選ぶことができます。

1 ステーションリストモードにする

FUNC ボタン、chLIST ボタンの順に押す




いま受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す
選んだ放送局を受信します。

メモ

表示されている放送局名が、受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。( ラジオ⑥)
放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なります。表示されている放送局名が受信している放送局名と異なる場合、放送局名を変更することができます。

注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ST.SEL ボタンの順に押す。

注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して (E68 ここだけ) ④ 19 ページ) から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の放送局名を選ぶとき
- ◀ : 前の放送局名を選ぶとき



3 選んだ放送局名に変更する

▲ ボタンを押す

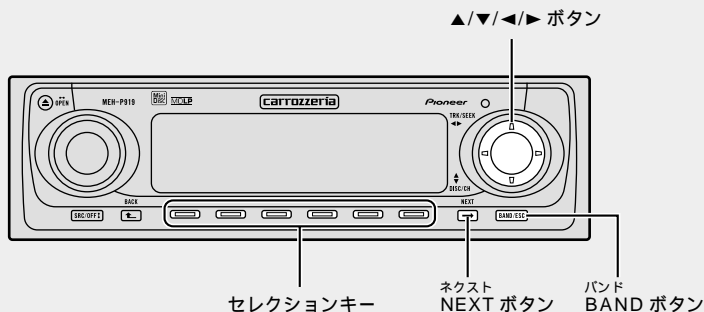
選んだ放送局名に変更されます。

メモ

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、“No data” と表示されます。

放送局名を表示させたくないときは、全て空白の表示を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD (「CDX-FM653」など) をお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM TVsound”に変更して表示することができます。



マルチCD 1 聞きたいCDを 直接選ぶ

ダイレクトサーチ

聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。

1 “1”～“6”（または“7”～“12”）を表示する

NEXT ボタンを押す

“1”～“6”（または“7”～“12”）が表示されるまで、NEXTボタンを押して切り換える。



2 聞きたいCDを選ぶ

1～6（または7～12）のボタンを押す



CD番号

メモ

6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7”～“12”の表示には切り換わりません。

マルチCD 2 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを 切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT ROM SCAN TLIST DLIST MUSE ▶

TTL COMP ITSP ITSM ▶

RPT ROM SCAN TLIST DLIST MUSE ▶ に戻る

マルチCD 3 同じ曲やCDを繰り返し聞き返す

リピート再生

(つづき)

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → D.LIST → PAUSE → TTLin → COMP → ITS.P → ITS.M → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)、ITS登録モード(ITS.M)を選んでいる場合、自動では解除されません。トラックリストモード(T.LIST)は、「CD TEXT」に対応しているマルチCD(CDX-P670など)で「CD TEXT」を再生しているときのみ表示され、操作することができます。

再生範囲について

再生範囲(繰り返し聞き返す範囲)は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Disc repeat	再生中のCDを繰り返し再生します。
Magazine repeat	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切替モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切替モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- Track repeat (トラックリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Magazine repeat (マガジンリピート)
- Track repeat に戻る

マルチCD
4いつもと違う曲順で
聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生
範囲を選ぶ (☞ マルチCD 31ページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードに
する

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

マルチCD
5 聞きたい曲やCDを
さがす

トラックスキャン再生/ディスクスキャン再生

今聞いているCDの、曲の始めの部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生
範囲を選ぶ (☞ マルチCD 31ページ)聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

トラックスキャン再生/ディスクスキャン再生(つづき)

聞きたいCDをさがすとき
(ディスクスキャン再生)

再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。マルチCD内のすべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードに
する

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(CD)が再生されたら
スキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲(またはCD)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときだけ、トラックリストモードに切り換わります。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。
◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

1 ディスクリストモードにする

FUNC ボタン、D.LIST ボタンの順に押す



いま聞いているCDの番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたいCDを選ぶ

聞きたいCDと同じ番号のボタンを押す
選んだCDが再生されます。

メモ

7 ~ 12 枚目のディスクを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”~“12”を表示してから、手順2の操作で聞きたいCDを選びます。6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7”~“12”の表示には切り換わりません。
◀/▶ ボタンで聞きたいCDを選び、▲ ボタンで選んだCDを再生することもできます。
マガジンにCDがセットされていないときは、“No disc”が表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“No D.Title”が表示されます。

マルチCD

8

CD再生を一時停止
する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順
に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFF
をすることができます。

マルチCD

9

CDのタイトルを記

CDにタイトルを入力することができます。
また、入力したタイトルはディスプレイに
表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して
記憶させておき、ディスプレイに表示させる
機能です。タイトル入力しておく、CD再
生時に入力したタイトルが表示されます。CDにタイトルをつけるとディスクリスト
(☞ マルチCD⑦ 33ページ) で聞きたいCDを
さがすこともできます。「CD TEXT」に対応しているマルチCD
(「CDX-P670」など)では、「CD TEXT」に
あらかじめ収録されているCDタイトルで同
様にディスクリスト (☞ マルチCD⑦ 33ページ)
をすることができます。

タイトルは10文字まで入力できます。

記憶はCDごとに行われます。CDを入れ
換えても、そのCDの記憶は消えません。タイトルは、ITS (☞ マルチCD① 37ペー
ジ) と合わせてCD100枚分の記憶ができ
ます。100枚を超えたときは、いちばん古いCD
の記憶が消されて、新しいCDが記憶され
ます。1 タイトルを入力したいCDを
再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで④ 20ページ)

2 タイトル入力モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、
TTLin ボタンの順に押す

ご注意

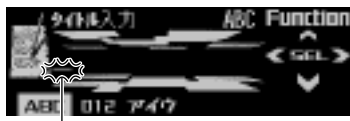
「CD TEXT」に対応しているマルチCD
(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を
再生しているときは、タイトル入力モードに切
り換えると、「入力できません」と表示され、
タイトルを入力することはできません。(「CD
TEXT」に収録されているCDタイトルは変更
できません。)

3 タイトルを入力する

入力する位置を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 右に移動させるとき
- ◀ : 左に移動させるとき

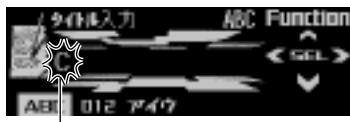


入力する位置でカーソルが点滅します。
10文字まで入力できます。

入力する文字を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

- ▲ : 次の文字を選ぶとき
- ▼ : 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

押すボタン	選べる文字
ABCボタン (ABCボタンを 押しごとに切り 換わります。)	アルファベットの小文字 (a ~ z)、空白 (_)
012ボタン	アルファベットの大文字 (A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など) 空白 (_)
アイウボタン (アイウボタンを 押しごとに切り 換わります。)	カタカナ (ア ~ ン)、 音引き (-)、 空白 (_) 拗促音 (ア、ヨ、ツなど)、 濁点、半濁点、 空白 (_)

4 入力が終わったら 10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

5 入力したタイトルを 記憶させる

▶ ボタンを押す



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

6 タイトル入力モードを 解除する

BAND ボタンを押す

メモ

タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) にBANDボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック COMP/DBE機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

COMPについて

COMPとは、Compression (コンプレッション)の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス)の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、COMP ボタンの順に押す



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

ご注意

COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No COMP”が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

COMP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

COMP OFF → COMP 1 (コンプレッション1)
→ COMP 2 (コンプレッション2)
→ COMP OFF → DBE 1 → DBE 2
→ COMP OFFに戻る

メモ

COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

記憶させた曲だけ再生する (☞ マルチCD⑩ 38ページ) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチCDに記憶させておきます。

ITS について

ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラック セレクション) の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (☞ マルチCD⑩ 38ページ) 機能です。

曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。

CD1枚につき99曲まで記憶することができます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、記憶できる曲が24曲目までになります。)

ITSは、タイトル (☞ マルチCD⑨ 34ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 記憶させたいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで④ 20ページ)

2 ITS 登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

3 記憶させたい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

(☞ ここだけで④ 21ページ)

4 記憶させる

MEMO ボタンを押す



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

5 ITS 登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▲ボタンでも曲を登録することができます。

マルチCD 12 記憶させた曲だけ再生する

ITS 再生

ITS 登録 (☞ マルチCD ① 37 ページ) で記憶させた曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD ③ 31 ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITS プレイ設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.P ボタンの順に押す

3 ITS 再生を ON にする

ITS.P ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ITS 再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

メモ

手順1で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ITS empty”が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

マルチCD 13 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す

ITS 消去 (1曲ごと)

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができます。

1 ITS 再生を ON にする (☞ マルチCD ②)

2 消去したい曲を再生する

◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで④ 21 ページ)

3 ITS 登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

4 消去する

CLEAR ボタンを押す



次に記憶されている曲

再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。

5 ITS 登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ITS empty”が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

ITS登録モードでは、▼ボタンでも曲を消去することができます。

記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS 消去 (CDごと)

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

1 消去したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで④ 20 ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。(☞ マルチCD②)

2 ITS登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

3 消去する

CLEAR ボタンを押す



約2秒間表示され、消去したことを知らせます。

4 ITS登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▼ボタンでもCDごとに曲を消去することができます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」(☞ はじめに④ 8 ページ)に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CDTEXT」再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティストネームを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

タイトル表示/タイトルスクロール(つづき)

チェック 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)の機能です。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティストネーム
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティストネーム
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティストネーム
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

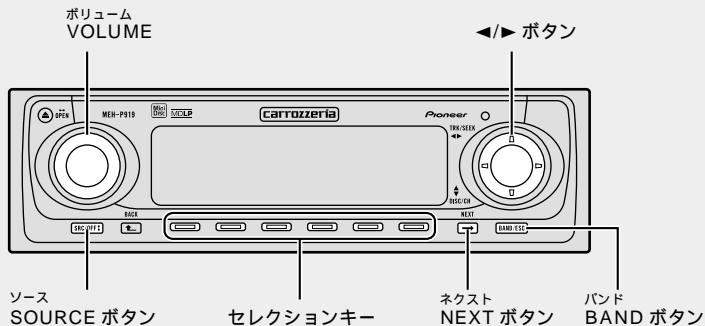
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、▲/▼/◀/▶ ボタンでCDや曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティストネームなどが記憶されていないCDで表示を切り換えると、「No artist name」などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、「No title」が表示されます。



1枚型CD 1 1枚型CDのふだんの操作

ここだけの操作で、1枚型CDプレーヤーでCDを聞くことができます。

1 1枚型CDプレーヤーについて

本機での1枚型CDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。1枚型CDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせた1枚型CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



1 ソースを1枚型CDにする

SOURCE ボタンを押す

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

3 音量を調節する

VOLUME を回す

4 1枚型CD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN PAUSE

TTLin COMP

セレクションキーを切り換えるには、NEXT ボタンを押します。

3 選んだモードを操作する

リピートプレイ設定モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに ON/OFF します。

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに ON/OFF します。

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに ON/OFF します。

ポーズ設定モード (PAUSE)

PAUSE ボタンを押すごとに ON/OFF します。

タイトル入力モード (TTLin)

タイトル入力モードの操作方法はマルチ CD と (マルチ CD 34 ページ) 同じです。(別売のマルチ CD (「CDX-P670」など) を接続していない場合、タイトルを入力することはできません。)

コンプレッション設定モード (COMP)

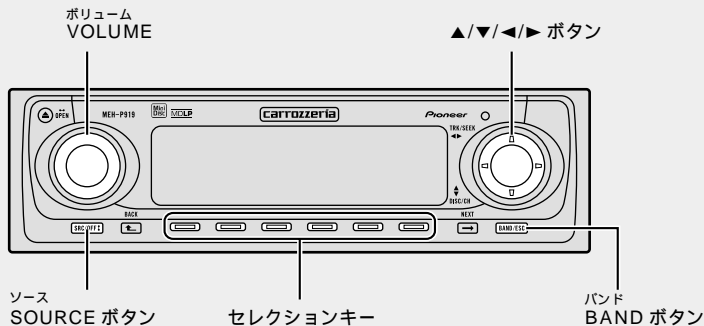
COMP ボタンを押すごとに設定が切り換わります。(コンプレッション機能がない 1 枚型 CD では、「No COMP」と表示され操作できません。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。



マルチMD

1

マルチMDの ふだんの操作

ここだけの操作で、マルチMDプレーヤーでMDを聞くことができます。

1 ソースをマルチMDにする

SOURCE ボタンを押す

2 聞きたいMDを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 マルチMD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

1～6ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
(※ マルチCD 30ページ)

マルチMDプレーヤーについて

本機でのマルチMDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。マルチMDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたマルチMDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN DLIST

3 選んだモードを操作する

再生範囲切換モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Track repeat → Disc repeat → MultiMD repeat → Track repeatに戻る

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Random OFF → Random 1 → Random 2 → Random OFFに戻る

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Scan OFF → Scan 1 → Scan 2 → Scan OFFに戻る

ディスクリストモード (D.LIST)

ディスクリストモードの操作方法はマルチCDと同じです。(※ マルチCD 33 ページ)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

BSSM chLIST MPX

3 選んだモードを操作する

BSSM 設定モード (BSSM)

BSSM ボタンを押すごとに ON/OFF します。BSSM が終了すると、自動的にチャンネルリストモードに切り換わります。

チャンネルリストモード (chList)

chList ボタンを押すとチャンネルリストモード(テレビ)に切り換わります。(チャンネルリスト機能に対応していないテレビでは、“chList”が表示されず、操作することができません。)

マルチプレックス選択モード (MPX)

MPX ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Main に戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

BSSM とは、Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)の略です。

チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

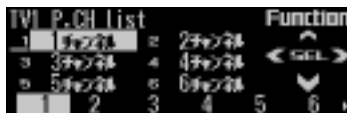
チャンネルリスト

1～12のボタンに記憶させたチャンネルの一覧(チャンネルリスト)から見たいチャンネルを選ぶことができます。

チェック チャンネルリスト機能に対応しているテレビで操作できます。

1 チャンネルリストモードにする

FUNC ボタン、chLIST ボタンの順に押す



いま受信中のチャンネルの番号の下に、“_”が表示されます。

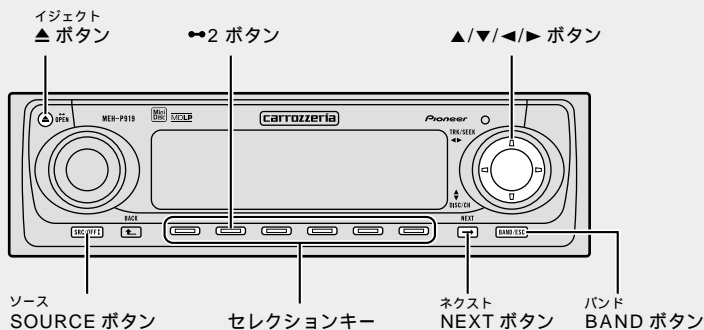
2 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルと同じ番号のボタンを押す

選んだチャンネルを受信します。

メモ

7～12ボタンに記憶されているチャンネルを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”～“12”を表示してから、手順2の操作で見たいチャンネルを選びます。



音の調節

1

DSP について

本機には、3-wayネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。初期設定は、スタンダードモードになっています。(☞ はじめに 9 ページ)

動作モードについて

3-wayネットワークモード (NW) は、高・中・低音域のそれぞれの音域 (バンド) を専用のアンプとスピーカーで再生する3-wayマルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築することができます。3-wayネットワークモードには、マルチアンプ・マルチスピーカーシステムに不可欠なネットワーク機能やタイムアライメント機能があり、各音域の設定条件を厳密にコントロールすることができます。

スタンダードモード (STD) は、フロント・リアの4スピーカーシステムまたはフロント・リア・サブウーファーの6スピーカーシステムを構築することができます。また、スタンダードモードには、簡単にリアルな音場を再現することができるSFC機能があります。

メモ

車のバッテリー交換などで、本機に電源が供給されなくなると、本機のマイコンは初期状態に戻ります。この場合、本機に記憶させたオーディオの調整内容がすべて消去されてしまいます。オーディオの調整が終了したら、再設定に手間のかかる調整内容を記録しておくことをおすすめします。(☞ その他 86 ページ)

3-wayネットワークモードを選んでいる場合、オートイコライジングを行うことはできません。

動作モードのマークについて

この説明書では、説明を分かり易くするため、以下のマークを使用しています。

NW: このマークは、3-wayネットワークモードにしかない機能および3-wayネットワークモードでの操作をあらわします。

STD: スタンダードモードにしかない機能およびスタンダードモードでの操作をあらわします。

何もマークが付いていない機能や操作は、2つのモードに共通して使用できます。

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

3-way ネットワークモード **NW**

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 音場の中心で聞く (POSI)
- 前後左右の音量バランスを調節する (BAL)
- タイムアライメントを調節する (T.AL)
- ネットワークを調節する (NW)
- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
- イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

便利な機能

次の機能は、お好みに合わせてお使いください。

- お好みに合った効果をかける (EFFECT) **NW**
- 小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)
- イメージに合った演奏会場を再現する (SFC) **STD**
- 騒音に合わせて音量を変える (ASL)
- 各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)
- 音の歪みを補正する (D.ATT)

スタンダードモード **STD**

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- 音場の中心で聞く (POSI)
- 車種に合ったタイムアライメントを選ぶ (T.AL1)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 音場の中心で聞く (POSI)
- 車種に合ったタイムアライメントを選ぶ (T.AL1)
- 前後左右の音量バランスを調節する (F/B)
- タイムアライメントを調節する (T.AL2)
- サブウーファーを使う (SW1、SW2)
- 低い音をスピーカーから出力させないようにする (HPF F、HPF R)
- オートイコライジングを行う (A.EQ)
- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
- イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

NW

BAL NW POSI T.AL EQ1 EQ2

EFFECT LOUD ASL SLA D.ATT

BAL NW POSI T.AL EQ1 EQ2 に戻る

STD

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL

POSI T.AL1 T.AL2 SW1 SW2 HPFF

HPFR SLA A.EQ D.ATT

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

AUDIO ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

NW

BAL → NW → POSI → T.AL → EQ1 → EQ2 → EFFECT → LOUD → ASL → SLA → D.ATT → BALに戻る

STD

F/B → LOUD → SFC → EQ1 → EQ2 → ASL → POSI → T.AL1 → T.AL2 → SW1 → SW2 → HPFF → HPFR → SLA → A.EQ → D.ATT → F/Bに戻る

メモ

オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー13バンド調節モード(EQ2)やタイムアライメント調節モード(T.AL、T.AL2)、ネットワーク調節モード(NW)を選んでいない場合、自動では解除されません。

“T.AL”、“T.AL2”は、リスニングポジションセレクターモードで“FL”または“FR”を選んでいるときだけ表示されます。

“SW2”は、サブウーファーモードをONにしているときだけ表示されます。

ラジオのFMを聞いているときは、“SLA”は表示されません。

“A.EQ”は、オートイコライザーが設定されたあとに表示されます。

音場の中心で聞く

リスニングポジションセレクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。(3-wayネットワークモードを選んでいる場合、“ALL”を選ぶことはできません。)

1 リスニングポジション
セレクターモードにする

AW

AUDIO ボタン、POSI ボタンの順に
押す

STD

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、
POSI ボタンの順に押す

2 乗車位置を選ぶ

選びたい乗車位置のボタンを押す

同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	乗車位置
FL	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
FR	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
FRONT	同乗者が助手席にいるとき
ALL	同乗者が後部座席にいるとき STD



選んだ乗車位置が表示されます。

メモ

▲、▼、◀、または▶ ボタンで乗車位置を選ぶこともできます。

ボタン	乗車位置
◀	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
▶	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
▲	同乗者が助手席にいるとき
▼	同乗者が後部座席にいるとき STD

車種に合ったタイムア
ライメントを選ぶ **STD**

車種別タイムアライメント

あらかじめ車種別に用意されたタイムアライメントの中からお車に合ったものを選ぶことで、自動的に最適なタイムアライメントを設定することができます。

車種別タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

車種別タイムアライメントは、車種に合ったタイムアライメントをあらかじめ記憶していますので、車種を選ぶことで自動的に最適なタイムアライメントを設定することができます。

1 車種別タイムアライメント
設定モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、
T.AL1 ボタンの順に押す

2 車種を選ぶ

選びたい車種のボタンを押す

ボタン	車種
CMPCT	Compact (コンパクトカー)
SEDAN	Sedan (セダン)
WAGON	Wagon (ワゴン)
M. VAN	Mini van (ミニバン)
CUSTOM	Custom



選んだ車種が表示されます。

メモ

“Custom” には、お好みに合わせて調節したタイムアライメントが記憶されます。

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー / バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。(3-way ネットワークモードでは、前後のバランス調節はできません。)

NW

1

音量バランス調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、BAL ボタンを押す。

2

左右の音量バランスを調節する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 右を強めるとき
- ◀ : 左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。

STD

1

音量バランス調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、F/B ボタンを押す。

2

音量バランスを調節する

前後を調節する

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : 前を強めるとき
- ▼ : 後ろを強めるとき



前後のバランスはF25 ~ R25の範囲で調節できます。

左右を調節する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 右を強めるとき
- ◀ : 左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

車種に合わせて、厳密にタイムアライメントを調節することができます。

タイムアライメント調節について

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント調節モードにする

確認

リスニングポジションセレクターモードで“FL”か“FR”を選んでいないと、タイムアライメント調節モードを選ぶことはできません。

NW

AUDIO ボタン、T.AL ボタンの順に押す

STO

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL2 ボタンの順に押す

2 距離の単位を選ぶ

使いたい単位のボタンを押す

ボタン	車種
cm	cm (センチメートル)
inch	inch (インチ)

3 各スピーカーの距離を調節する

調節するスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

NW

High Left、High Right、Mid Right、Mid Left、Low Left、Low Right の中から選ぶことができます。

STO

Front Left、Front Right、Rear Right、Rear Left、Sub. W (Subwoofer) の中から選ぶことができます。

距離を調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲：距離を遠くするとき

▼：距離を近くするとき



0.0 cm ~ 400.0 cm の範囲で調節できます。(インチを選んでいる場合は、0 inch ~ 160 inch の範囲で調節できます。)

4 タイムアライメント調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

リスニングポジションセレクターモード (音の調節 49 ページ) で“FL”か“FR”を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

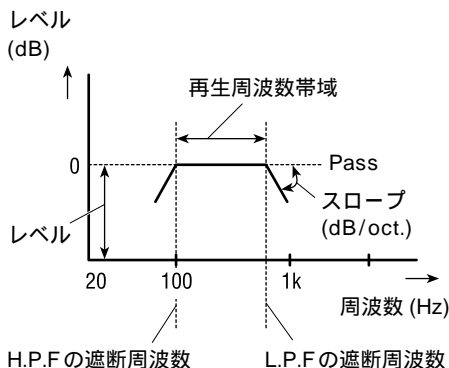
サブウーファーモードをOFFにしているときは、“Sub. W”には、切り換わりません。

ネットワークについて

ネットワーク機能は、オーディオ信号を各音域ごとに分割し、それぞれの音域を各音域専用のスピーカーユニットで再生します。各スピーカーユニットの特性に合わせ、再生周波数帯域（ローパスフィルターやハイパスフィルター）やレベル、位相などを厳密に調整することができます。

調整項目

ネットワーク機能は、以下の項目の調節が可能です。接続した各スピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合うよう調整してください。



再生周波数帯域

ハイパスフィルター（H.P.F.）やローパスフィルター（L.P.F.）の遮断周波数調節は、各スピーカーユニットの再生周波数帯域を設定することができます。

H.P.F. は、設定した周波数以下の周波数（低音域）をカットし、高い周波数だけを通すフィルターです。

L.P.F. は、設定した周波数以上の周波数（高音域）をカットし、低い周波数だけを通すフィルターです。

レベル

スピーカーユニット間の再生レベルを補正することができます。

スロープ

H.P.F./L.P.F.のスロープ（フィルター特性の減衰量の傾き）調節は、スピーカーユニット間の音のつながりを調節することができます。

スロープは、周波数が1オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何dB減衰するかをあらわす値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

位相

各スピーカーユニットの入力信号に対する位相（正相/逆相）を切り換えることができます。スピーカー間の音のつながりが悪いときは、位相を切り換えてみてください。スピーカー間の音のつながりが良くなる場合があります。

ネットワーク調整のポイント

遮断周波数調整のポイント

低音域スピーカーをリアトレイに設置した場合、“L LPF”の遮断周波数を高く設定すると、低音が分離して後から聞こえてくるようになります。“L LPF”の遮断周波数は、100 Hz以下に設定することをお勧めします。

中音域や高音域のスピーカーは、低音域のスピーカーより耐入力が低く設定されているのが一般的です。“M HPF”や“H HPF”の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、強い低音信号の入力によってスピーカーが破損する恐れがありますので、ご注意ください。

レベル調整のポイント

中音域には、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初に中音域のレベル調節を行い、高音域、低音域の順でレベルを調節することをお勧めします。

スロープ調整のポイント

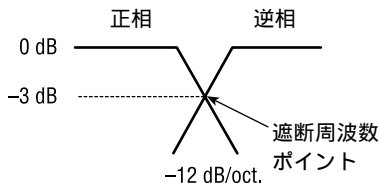
スロープの絶対値を小さく(傾きをゆるやかに)すると、隣り合うスピーカーユニット間の干渉によって周波数特性が影響を受けやすくなります。

スロープの絶対値を大きく(傾きを急に)すると、スピーカーユニット間の音のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

スロープを 0 dB/oct. (Pass) に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、フィルター回路は効果がなくなります。

位相調整のポイント

両側のフィルター共に遮断周波数ポイントのスロープ設定値を - 12 dB/oct. に設定した場合、フィルターの遮断周波数において位相が 180 度反転します。この場合、位相を反転すると、音のつながりが良くなります。



スピーカーユニットにミュートをかける

各スピーカーユニット(フィルター)をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニット(フィルター)からは、音が出なくなります。

選んだスピーカーユニット(フィルター)をミュートした場合、“MUTE”が点滅し、何も調節できなくなります。

ミュートしたスピーカーユニット(フィルター)以外のスピーカーユニット(フィルター)は調節することができます。

1 ネットワーク調節モードにする

AUDIO ボタン、NW ボタンの順に押す

2 ミュートするスピーカーユニット(フィルター)を選ぶ

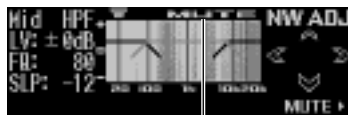
ミュートしたいスピーカーユニット(フィルター)のボタンを押す

ボタン	スピーカーユニット(フィルター)
L LPF	低音域スピーカーのLPF
M HPF	中音域スピーカーのHPF
M LPF	中音域スピーカーのLPF
H HPF	高音域スピーカーのHPF

3 選んだスピーカーユニット(フィルター)をミュートする

MUTE ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



“MUTE”が点滅します。

ネットワークを調節する **NW**

ネットワーク調節

各スピーカーユニットの再生周波数帯域やレベル、位相などを調整することで、各スピーカーユニットの特性に合わせた厳密な設定をすることができます。

1 ネットワーク調節モードにする

AUDIO ボタン、NW ボタンの順に押す

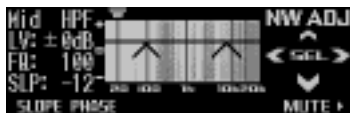
2 調節するスピーカーユニット (フィルター) を選ぶ

調節したいスピーカーユニット (フィルター) のボタンを押す

ボタン	スピーカーユニット (フィルター)
L LPF	低音域スピーカーのLPF
M HPF	中音域スピーカーのHPF
M LPF	中音域スピーカーのLPF
H HPF	高音域スピーカーのHPF

3 遮断周波数を調整する

◀または▶ ボタンを押す



L LPF、M HPF を選んだとき

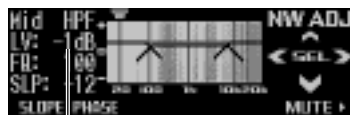
31.5 ↔ 40 ↔ 50 ↔ 63 ↔ 80 ↔ 100
↔ 125 ↔ 160 ↔ 200 (Hz)

M LPF、H HPF を選んだとき

1.6 ↔ 2 ↔ 2.5 ↔ 3.15 ↔ 4 ↔ 5
↔ 6.3 ↔ 8 ↔ 10 ↔ 12.5 ↔ 16 (kHz)

4 レベルを調整する

▲または▼ ボタンを押す

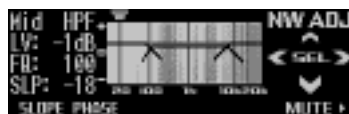


0 dB ~ - 24 dB の範囲で調節できます。
(“L LPF” を選んでいる場合は、+ 6 dB
~ - 24 dB の範囲で調節できます。)

5 スロープを調整する

SLOPE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



L LPF を選んだとき

- 12 → - 18 → - 6 (dB/oct.)

M HPF を選んだとき

- 12 → - 18 → Pass (0) → - 6 (dB/oct.)

M LPF を選んだとき

- 12 → Pass (0) → - 6 (dB/oct.)

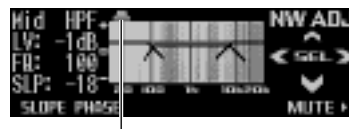
H HPF を選んだとき



- 12 → - 6 (dB/oct.)

6 位相を切り換える

PHASE ボタンを押す

ボタンを押すごとに位相が切り換わります。



正相 (Normal : ) か逆相 (Reverse : )
かが表示されます。

7 ネットワーク調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。(この機能は、初期設定でONになっています。)

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125(単位:Hz)から選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 サブウーファーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、SW1 ボタンの順に押す

2 サブウーファーをONにする

SW1 ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 位相を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : NORMAL (正相)
- ◀ : REVERSE (逆相)



4 サブウーファー調節モードにする

SW2 ボタンを押す

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125(Hz)の中から選ぶことができます。

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは -24 ~ +6 の範囲で調節できます。

メモ

サブウーファーをOFFにしたときは、サブウーファー調節モード(SW2)には、切り換わりません。

低い音を出力しないようにする **STD**

ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルターをONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125 (単位: Hz) から選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

フロントスピーカーの調整をするとき

1 フロントハイパスフィルター調整モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、HPF F ボタンの順に押す

2 フロントハイパスフィルターをONにする

HPF F ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 フロントハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

リアスピーカーの調整をするとき

1 リアハイパスフィルター調整モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを2回、HPF R ボタンの順に押す

2 リアハイパスフィルターをONにする

HPF R ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 リアハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

オートイコライザーを ON/OFF する **STD**

オートイコライザー

オートイコライジング (E3 音の調節④ 64 ページ) で作成したオートイコライザーカーブの ON/OFF をすることができます。

1 オートイコライザーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、A.EQ ボタンの順に押す

2 オートイコライザーを ON/OFF する

A.EQ ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



メモ

オートイコライジング (E3 音の調節④ 64 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードには切り換わりません。

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から好みものイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM について

“CUSTOM1” と “CUSTOM2” は、お好みに合わせて調節することができます。(E3 音の調節④ 58 ページ)

FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザーモードにする

EQ ボタンを押す

2 イコライザーカーブを選ぶ

選びたいイコライザーカーブのボタンを押す

ボタン	イコライザーカーブ
S.BASS	SUPER BASS
PWRFL	POWERFUL
NATRL	NATURAL
VOCAL	VOCAL
FLAT	FLAT
CSTM1	CUSTOM1
CSTM2	CUSTOM2



選んだイコライザーカーブが表示されます。

メモ

“CSTM2” を選ぶ場合、NEXT ボタンを押して、“CSTM2” を表示してから、手順 2 の操作で選びます。

◀または▶ ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。
イコライザーモードは、約 8 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

音の調節

14

イコライザーカーブ
を大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ (音の調節 57 ページ)

2 イコライザー調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ1 ボタンの順に押す

3 イコライザーカーブを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき



- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

メモ

◀または▶ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます

“FLAT” や全ての周波数が “0” に設定されているイコライザーカーブでは、ニュアンスコントロールすることはできません。

音の調節

15

イコライザーカーブ
を細かく調節する

イコライザー調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

CUSTOM1 について

“CUSTOM1” には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵 MD とマルチ MD、1 枚型 CD とマルチ CD は、同じ設定になります。)

“CUSTOM2” 以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“CUSTOM1” に記憶されます。

イコライザー調節 (つづき)

CUSTOM2 について

“CUSTOM2” は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“CUSTOM2” を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい “CUSTOM2” として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ (音の調節 57 ページ)

2 イコライザー 13 バンド調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ2 ボタンの順に押す

3 各周波数ごとのレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ボタンを押す



選んだ周波数が表示されます。

選べる周波数 (Hz)

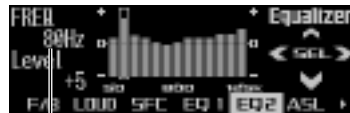
50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k

レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき



- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 13 バンド調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

お好みに合わせてOctaverやBBEといった音響効果をつけることができます。

OCT (オクターバー) について

サブウーファー帯域の超低音域を補うことで、低音を強調した重量感のある音で聞くことができます。OCTAVER2のほうがOCTAVER1より低音を強調する効果があります。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

OCTを選ぶ場合

1 OCTを選ぶ

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、EFFECT ボタン、OCT ボタンの順に押す

2 OCTAVERのレベルを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

- ▲ : OCTAVER1を選ぶとき
- ▼ : OCTAVER2を選ぶとき



BBEを選ぶ場合

1 BBEを選ぶ

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、EFFECT ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBEのレベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

音の調節

17

小音量時の音に
メリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモードにする

NEW

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、LOUD ボタンの順に押す

STO

AUDIO ボタン、LOUD ボタンの順に押す

2 ラウドネスをONにする

LOUD ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



音の調節

18

イメージに合った演

SFCで実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、Octaverではレベルの切り換え、BBEではレベルの調節をすることができます。

SFCについて

SFCとはSound Field Control (サウンドフィールド コントロール) の略です。SFCは、車室内にリアルな音場を再現することができます。STUDIOやDOMEなど4つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

OCT (オクターバー) について

サブウーファー帯域の超低音域を補うことで、低音を強調した重量感のある音で聞くことができます。OCTAVER2のほうがOCTAVER1より低音を強調する効果があります。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせることで修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFCモードにする

AUDIO ボタン、SFC ボタンの順に押す

2 音場プログラムを選ぶ

選みたい音場プログラムのボタンを押す
同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	音場プログラム
STUDIO	STUDIO
CLUB	CLUB
HALL	CONCERT HALL
DOME	DOME
OCT	OCTAVER 1、2
BBE	BBE



選んだ音場プログラムが表示されます。

奏会場を再現する **STD**

SFC / OCT / BBE

OCT を選ぶ場合

1 OCT を選ぶ

AUDIO ボタン、SFC ボタン、OCT ボタンの順に押す

2 OCTAVER のレベルを選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

- ▲ : OCTAVER1 を選ぶとき
- ▼ : OCTAVER2 を選ぶとき



BBE を選ぶ場合

1 BBE を選ぶ

AUDIO ボタン、SFC ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBE のレベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

音の調節 **19** 騒音に合わせて音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASLについて

ASLとは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー)の略です。

ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASL モードにする

MEMO

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、ASL ボタンの順に押す

STD

AUDIO ボタン、ASL ボタンの順に押す

2 ASL の感度を選ぶ

ASL ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



ASL OFF → Low → Mid-Low → Mid → Mid-High → High → ASL OFF に戻る

メモ

音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。この機能が働いて音量が上がすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときはVOLUMEを左に回して音量を下げてください。

音の調節
20各ソースの音量の
違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を
確かめる

SOURCE ボタンを押す
(☞ ここだけで① 18 ページ)

2 調節したいソースに
切り換える

SOURCE ボタンを押す
(☞ ここだけで① 14 ページ)

3 SLA モードにする

▶▶▶

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、
SLA ボタンの順に押す

▶▶▶

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
SLA ボタンの順に押す

4 レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



- 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

SLAとはSource Level Adjuster(ソースレベルアジャスター)の略です。

FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。

AM、テレビ、CD、MD、External(エクスタナールユニット)、AUX(外部機器)のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵MDとマルチMD、1枚型CDとマルチCD、External 1とExternal 2、およびAMと交通情報(☞ 便利な機能⑥ 67 ページ)は同じ設定になります。

音の調節
21

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節(☞ 音の調節⑩ 58 ページ)による音の歪みをなくすことができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの調節(☞ 音の調節⑩ 58 ページ)でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの調節で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定をLOWに切り換えてください。

1 デジタルアッテネーター設定
モードにする

▶▶▶

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、
D.ATT ボタンの順に押す

▶▶▶

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
D.ATT ボタンの順に押す

2 設定を選ぶ

選びたい設定のボタンを押す

ボタン	設定
LOW	Low
HIGH	High



オートイコライジングを行う前に必ずお読みください。



警告

走行中にオートイコライジングを行わない



禁止

自動車が走行中にオートイコライジングを行わないでください。オートイコライジング機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態でオートイコライジングを行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。オートイコライジングを行う前に、よく確認してください。

スピーカーの接続を誤っている場合

(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)

スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

オートイコライジング機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

本機のオートイコライジング機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、オートイコライジングにより乱れの少ない滑らかな特性になった上でイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。)

オートイコライジングを行う前にお読みください

オートイコライジングは、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからオートイコライジングを行ってください。計測音以外の音(車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など)によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

オートイコライジングは、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、オートイコライジングが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

フロントスピーカーとリアスピーカーのどちらも接続されていない場合は、オートイコライジングが実行できません。(どちらかが接続されていれば、オートイコライジングが実行できます。)

入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、オートイコライジングが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

オートイコライジングを行うと、各モードの内容が次の様に変更されます。

* 前後左右の音量バランス調節(フェーダー/バランス)の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。

* イコライザーカーブは、フラット(FLAT)になります。

* リスニングポジションセクターは、Front Rightに設定されます。(ただし、Front Leftに設定していたときだけは、Front Leftのままになります。)

* サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。(サブウーファー出力をOFFにしている場合、自動的にONになり調節されます。)

オートイコライジングの調節内容について

一度オートイコライジングを行ったあとに、再度オートイコライジングを行うと、前のオートイコライジングの調節内容は消去されます。

オートイコライジングを行う **STD**

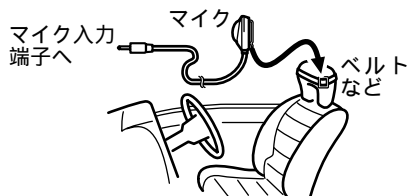
車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

静かな所に車を停車させる
ドア、窓、サンルーフなどを閉める
車のエンジンを停止させる

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属のマイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってオートイコライジングが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセレクターモードにして、乗車位置をマイクをセットした座席に設定する。(※ 音の調節④ 49ページ)

メモ

乗車位置を Front Seat Right または Front Seat Left 以外に設定したときは、オートイコライジングを始めると、強制的に Front Seat Right に再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

7 オートイコライジングモードにする

→ 2 ボタンを 2 秒以上押す



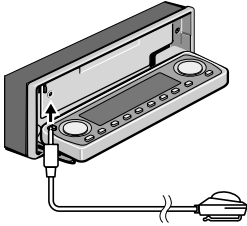
フロントパネルが自動的に開きます。

メモ

→ 2 ボタンの位置が分からない場合は (※ 46ページ)

8 マイクを本機に接続する

付属のマイクをマイク入力端子に接続する



9 オートイコライジングを始める

A. EQ ボタンを押す

もう一度ボタンを押すと途中解除します。



10 車外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉める
計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、オートイコライジング（音響特性の測定および補正）が始まります。

11 オートイコライジングが自動的に終了する



オートイコライジング操作が終わったらセットしたマイクを取り外し、BAND ボタンを押して電源を切り、▲ ボタンを2秒以上押してフロントパネルを元の位置に戻してください。

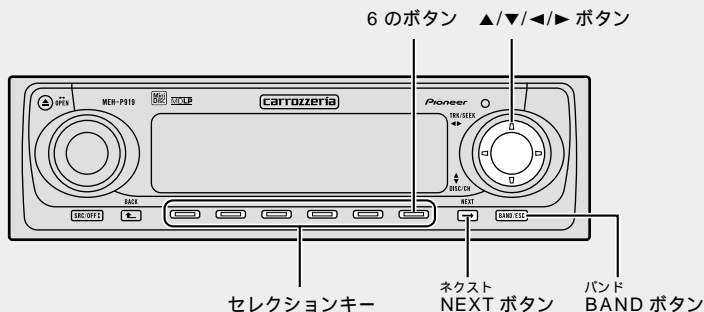


注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。
フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

メモ

オートイコライジングを途中でやめなくなったときは、BAND ボタンを押してください。強制的に解除して、電源OFFになります。
マイクをセットする位置により、オートイコライジングの調節内容が変わります。
お好みにより、助手席にセットすることもできます。
マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



便利な機能

1

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1

瞬時に音量を小さくする

ATT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



アッテネーターがONのときに反転表示します。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

便利な機能

2

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンのDFボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。

内蔵MD、マルチCD、1枚型CDのとき

1

再生を一時停止する

リモコンのDFボタンを押す

(☞ はじめに① 7ページ)

ボタンを押すごとに機能がON/OFFします。

(☞ 内蔵MD② 24ページ、マルチCD③ 34ページ、1枚型CDの取扱説明書)

ラジオのとき

1

BSMを始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す

(☞ はじめに① 7ページ)

BSMが始まります。(☞ ラジオ④ 28ページ)

メモ

BSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSMを途中解除することもできます。

ダイレクトファンクション (つづき)

マルチ MD のとき

1 リピート再生を切り換える

リモコンの DF ボタンを押す

(☞ はじめに① 7 ページ)

ボタンを押すごとにリピート再生が切り換わります。(☞ マルチ MD の取扱説明書)

テレビのとき

1 BSSM を始める

リモコンの DF ボタンを 2 秒以上押す

(☞ はじめに① 7 ページ)

BSSM が始まります。(☞ テレビの取扱説明書)

メモ

BSSM 中にリモコンの DF ボタンを押すことで、BSSM を途中解除することもできます。

便利な機能

3

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1,620 kHz または 1,629 kHz の交通情報を、簡単に受信することができます。

1 “TI” を表示する

NEXT ボタンを押す

“TI” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

TI

FM 107.7 MHz [FM 107.7]

2 交通情報を受信する

TI ボタンを押す

交通情報を受信します。

3 放送に合わせて周波数を切り換える

聞きたい周波数のボタンを押す

ボタン	周波数
1620	1620 kHz
1629	1629 kHz



受信周波数

4 交通情報の受信をやめる

TI ボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

この機能は、どのソースからでも操作できます。交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。

時計・カレンダーを表示・調節する

本機の電源がONのときに時計を表示・調節することができます。

時計を表示する

1 “CLK” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CLK” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 時計表示をONにする

CLK ボタン、**ON/OFF ボタン**の順に押す

ON/OFF ボタンを押すごとにON/OFF します。



時計表示をONにすると同時に、“TIME” や “DATE”、“JUST” が表示されます。

3 時計・カレンダーモードを解除する

BAND ボタンを押す



時計表示

オフカレンダー表示

時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、6のボタンを押してデモモードをOFFにすると、時計表示とともにカレンダーを表示することができます。

メモ

時計モードは、約60秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

日付を設定する

1 時計を表示する

2 カレンダー調整モードにする

DATE ボタンを押す



3 日付の設定をする

年または月、日を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに年または月、日が切り換わります。

日付を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：日付を進めるとき

▼：日付を戻すとき

メモ

時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、フィーチャーデモをOFFにすると、カレンダーを表示することができます。

年は2002年から2051年までの範囲で設定できます。

時計を設定する

1 時計を表示する

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す



3 時計の設定をする

時または分を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに時または分が切り換わります。

時刻を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：時刻を進めるとき

▼：時刻を戻すとき

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

時刻を時報に合わせる

1 時計を表示する

2 時刻を時報に合わせる

JUST ボタンを押す

「分」が「00」になります。

例) 10 : 00 ~ 10 : 29 → 10 : 00
10 : 30 ~ 10 : 59 → 11 : 00

メモ

カレンダー調整モードを選んでいる場合、「JUST」は表示されません。

便利な機能

5

カスタムメニューの切り換えかた

表示画面の選択やディマーなどの設定をするときはカスタムメニューを切り換えて操作します。

1 “C. MENU” を表示する

NEXT ボタンを押す

“C. MENU” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 カスタムメニューにする

C. MENU ボタンを押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す



押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 カスタムメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

カスタムメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“PTRN” は、表示画面の“FORM 2”専用の機能です。“FORM 1”を選択しているときは表示されません。(E 便利な機能⑥)

便利な機能

6

表示画面を選ぶ

表示画面選択

本機の基本画面には、FORM 1 と FORM 2 の2つの表示方法があり、お好みに合わせて選ぶことができます。

1 表示画面選択モードにする

C. MENU ボタン、D. FORM ボタンの順に押す

2 表示を選ぶ

お好みの表示のボタンを押す

ボタン	表示
FORM1	FORM 1
FORM2	FORM 2

便利な機能

7

ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1 輝度調整モードにする

C. MENU ボタン、BRGHT ボタンの順に押す

2 明るさを調節する

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 明るくしたいとき

◀ : 暗くしたいとき



0 ~ 31 の範囲で調節できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマーの設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにすると、ディスプレイが暗くなります。

1 ディマーモードにする

C. MENU ボタン、DMMER ボタンの順に押す

2 ディマーの設定をONにする

DMMER ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、ブライモード (E) 便利な機能⑧ でディスプレイの明るさを“0”に調節しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

背景のパターンを選ぶ

壁紙選択

表示画面に“FORM 2”を選んでいる場合、背景のパターンを選ぶことができます。

1 壁紙選択モードにする

C. MENU ボタン、PTRN ボタンの順に押す

2 壁紙を選ぶ

A、B、C ボタンの中から好みの壁紙のボタンを押す



エンタテインメントを表示させる

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメントメニューの切り換えかた

1 エンタテインメントメニューにする

ENT ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

MOVIE S/A ALL BG ECLK OFF

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 エンタテインメントメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

エンタテインメントメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“BG”は、表示画面の“FORM 1”専用の機能です。“FORM 2”を選択しているときは表示されません。(E 便利な機能 70 ページ)

ムービースクリーンを表示する

1 ムービースクリーン選択モードにする

ENT ボタン、MOVIE ボタンの順に押す

2 ムービースクリーンを選ぶ

お好みのムービーのボタンを押す

押したボタンのムービースクリーンが表示されます。

ボタン	表示
MOVIE1	スブラッシュ
MOVIE2	ヒートウェーブ
MOVIE3	ディスカバリー
MOVIE4	エクストリーム
ALL	MOVIE1 ~ 4 を順番に表示

レベルインジケータを表示する

1 レベルインジケータ選択モードにする

ENT ボタン、S/A ボタンの順に押す

2 レベルインジケータを選ぶ

S/A 1 ~ S/A 4 の中から、お好みのレベルインジケータのボタンを押す

押したボタンのレベルインジケータが表示されます。

ASL レベルインジケータを表示する

1 ASL レベルインジケータを表示する

ENT ボタン、ASL ボタンの順に押す

メモ

ASLについては (BSP 音の調節) 61 ページ)

バックグラウンドビジュアルを表示する

1 バックグラウンドビジュアル
選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGV ボタンの順に押す

2 バックグラウンドビジュアル
を選ぶ

BGV 1 ~ BGV 5 の中から、お好みのバックグラウンドビジュアルのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドビジュアルが表示されます。

バックグラウンドスタイルピクチャーを表示する

1 バックグラウンドスタイル
ピクチャー選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGP ボタンの順に押す

2 “BGP1” ~ “BGP6” と “BGP7”
~ “BGP12” を切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに “BGP1” ~ “BGP6” と “BGP7” ~ “BGP12” が切り換わります。

BGP 1 BGP 2 BGP 3 BGP 4 BGP 5 BGP 6

3 バックグラウンドスタイル
ピクチャーを選ぶ

BGP 1 ~ BGP 12 の中から、お好みのバックグラウンドスタイルピクチャーのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドスタイルピクチャーが表示されます。

タイムシグナルを表示する

1 タイムシグナルを表示する

ENT ボタン、E.CLK ボタンの順に押す

メモ

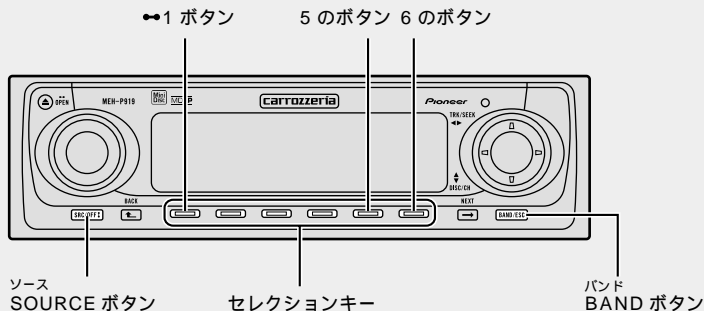
タイムシグナル表示は、音とアニメーションによる時報機能です。

エンタテインメント表示を解除する

1 エンタテインメント表示を
解除する

ENT ボタン、OFF ボタンの順に押す

現在表示しているエンタテインメント表示を OFF にします。



便利な機能

11

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やデモモードの設定をするときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す
(ここだけで① 14 ページ)

2 初期設定モードにする

電源が OFF のときに、↔1 ボタンを 2 秒以上押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

REV F.DEMO AUX MUTE.S

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

リモコンの場合

電源が OFF のときに、FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV → F.DEMO → AUX → MUTE.S → REV に戻る

リバースモードをON/OFFする

リバースモードのON/OFFをすることができます。

1 画面反転機能設定モードにする

電源がOFFのときに、**⇄** 1 ボタンを2秒以上押す

2 画面反転機能設定をONにする

REV ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

リバースモードは、本機がOFFのときに、5 ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

フィーチャーデモをON/OFFする

フィーチャーデモのON/OFFをすることができます。

1 デモンストレーション設定モードにする

電源がOFFのときに、**⇄** 1 ボタンを2秒以上押してから、F.DEMO ボタンを押す

2 デモンストレーション設定をONにする

F.DEMO ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

フィーチャーデモは、本機がOFFのときに、6 ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

14 外部機器の音声を聞く

AUX (外部機器) の設定

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。

詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器) モードにする

電源がOFFのときに、**↔1** ボタンを2秒以上押してから、AUX ボタンを押す

2 AUX (外部機器) の設定をONにする

AUX ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

4 ソースをAUXにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ
(**☞** ここだけで**①** 14ページ)



ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。

15 外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

1 ソースをAUXにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ
(**☞** ここだけで**①** 14ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

FUNC ボタン、TTLin ボタンの順に押す



3 外部機器の名称を入力し、記憶させる (**☞** マルチCD**⑨** 34ページ)

CDタイトル入力の手順3～6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。

例) “DAT” を入力した場合



“AUX” の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

メモ

TTLin ボタンを押さなくても、文字を入力することはできますが、アルファベットの小文字やカナ文字などを入力することはできません。

ミュート / アッテ ネットを切り換える

ミュート / アッテネット設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするか、アッテネットするかを選ぶことができます。

ミュートアッテネット機能について

ミュート機能のある製品 (パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-DR2000」など) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているあいだだけ、ミュートまたはアッテネット機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

TEL mute : 音量 " 0 "

10 dB ATT : もとの音量の 1/3

20 dB ATT : もとの音量の 1/10

ミュートまたはアッテネット機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュート設定モードにする

電源が OFF のときに、**1** ボタンを 2 秒以上押してから、**MUTE.S** ボタンを押す

2 設定を選ぶ

MUTE.S ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



TEL mute → 10 dB ATT → 20 dB ATT
→ TEL mute に戻る

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

使用できる MD について

下記マークの付いている MD (ミニディスク) をご使用ください。



音楽用以外の MD は使用しないでください。故障の原因になります。

取り扱い上のご注意

MD のシャッターを手であけないでください。無理にあげるとこわれることがあります。

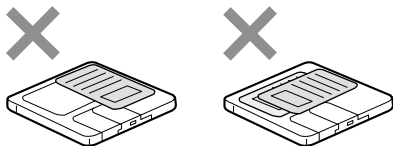
カートリッジ

シャッター

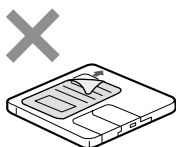


ラベルについて

MD に付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2枚重ねて貼ったりすると、MD が取り出せなくなることがあります。

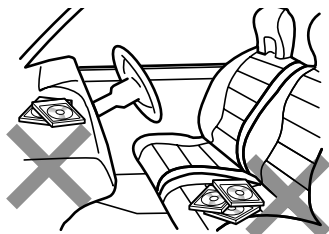


ラベルがめくれたり、浮いたりした MD は使用しないでください。ラベルが引っかかり、MD が取り出せなくなります。このような MD は新しいラベルに貼り換えてからお使いください。



保管上のご注意

MD は、直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。



お手入れについて

MD のカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。

MD にベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



MD 用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

クリーニングディスクによっては製品の故障の原因になる場合があります。

寒いときの結露について

寒いとき、ヒーターを入れた直後に MD の再生を始めると、本機内部の光学系レンズや MD につゆが付いて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1 時間ほど放置して自然につゆがとれるのをお待ちください。MD のカートリッジ表面に付いたつゆは柔らかい布で拭いてください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても直らないときは

本機をリセットしてください。(☞ はじめに⑤ 10 ページ)

それでも直らないときは

保証書とアフターサービス(☞ その他④ 83 ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(☞ 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。(☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください。(☞ ここだけで② 17 ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。(☞ 便利な機能① 66 ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節⑥ 50 ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節⑥ 50 ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節⑥ 50 ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。(☞ 便利な機能⑫ 75 ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。(☞ ここだけで④ 19 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。(☞ ここだけで④ 19 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。(☞ ここだけで④ 19 ページ)

故障かな?と思ったら (つづき)

MD

症状	原因	処置
再生中、大きな雑音が出る。 MDの再生が途中で止まる。	MDが極端に汚れている。 MDにくもりや水滴がついている。	MDを交換してください。
	録音されていないMDを挿入した。	
	MDが正しい方向に挿入されていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください。(☞ ここだけで 16 ページ)
MDの再生ができない。 MDを取り出せない。	本機がMDを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、▲ボタンを2秒以上押し、MDを取り出すことができます。もう一度入れ直してください。

MDのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しないとき。	他のMDと交換してください。 リセットボタンを押してください。 (☞ はじめに⑤ 10 ページ)
「ERROR-01」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MD再生を一度やめてから、もう一度MD再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	MDが汚れているとき。 MDにキズやひびがあるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-20」「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み取れなかったとき。 MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) があるとき。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、他のMDと交換してください。
「ERROR-22」「ERROR-24」	MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) があるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを挿入したとき。	音楽が録音されたMDに交換してください。
「ERROR-A1」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	MD再生を一度やめて、リセットボタンを押す (☞ はじめに⑤ 10 ページ)、もう一度MD再生にしてください。
「Blank MD」	何も録音されていないMDを挿入したとき。	他のMDと交換してください。
「TEMP」	本機の内部温度に異常があるとき。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。

TOCについて

TOC (Table Of Contents) とは、CDやMD、DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。

メモ

マルチMD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチMDの取扱説明書をご覧ください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「マイクを確認ください」	マイクが接続されていない。	付属のマイクをきちんと差し込んでください。(E38 音の調節 64 ページ)
「スピーカーを確認ください」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。(E38 取付説明書) 付属のマイクを正しくセットしてください。 なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「測定エラーです」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属のマイクを正しくセットしてください。
「Auto EQ できません」	3-way ネットワークモード時にオートイコライジングを実行した。	3-way ネットワークモード時は、オートイコライジングをすることはできません。

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

MD プレーヤー部

形式 : ミニディスク
デジタルオーディオシステム

使用ディスク : ミニディスク

信号
フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
量子化ビット数 : 16 ビット直線

周波数特性 : 20 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

S/N : 90 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)

ダイナミック
レンジ : 90 dB (1 kHz)

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

FM チューナー部

受信周波数帯域 : 76.1 ~ 89.9 MHz

実用感度 : 9 dBf (0.8 μV/75 、
モノラル、S/N : 30 dB)

S / N 50 dB
感度 : 14 dBf
(1.4 μV/75 、モノラル)

S / N : 70 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率 : 0.3 %
(65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)

周波数特性 : 30 ~ 15,000 Hz (± 3 dB)

ステレオ

セパレーション : 40 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AM チューナー部

受信周波数帯域 : 522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)

実用感度 : 18 μV (S/N : 20 dB)

実効選択度 : 50 dB (± 9 kHz)

オーディオ/DSP 部

最大出力 : 50 W × 4
定格出力 : 22 W × 4
(50 ~ 15,000 Hz、5 % THD)

負荷
インピーダンス : 4
(4 ~ 8 使用可能)

プリアウト
最大出力レベル : 2.2 V

出力
インピーダンス : 1 k
ラウドネス
コンター : 10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
(ボリュウム : - 30 dB)

イコライザー

(13 バンド
グラフィック
イコライザー) 周波数 : 50/80/125/200/
315/500/800/1.25k/
2k/3.15k/5k/8k/
12.5k Hz
調整幅 : ± 12 dB (2 dB)

オートイコライザー

(スタンダードモード
のみ)
(13 バンド
グラフィック) : 周波数 (F + R + SW) :
50/80/125/200/
315/500/800/1.25k/
2k/3.15k/5k/8k/
12.5k Hz
調整幅 : - 12 dB ~ +6 dB (2 dB)

ネットワーク

(スタンダードモード)
ハイパス
フィルター : 周波数 (F + R) :
50/63/80/100/125 Hz
スロープ : - 12 dB/oct.

サブウーファー

出力 : 周波数 : 50/63/80/100/125 Hz
スロープ : - 18 dB/oct.
調整幅 : - 24 dB ~ +6 dB (1 dB)
位相 : NORMAL/REVERSE

オーディオ/DSP部 (つづき)

ネットワーク

(3ウェイネットワーク)

ワークモード)

HIGH (HPF) : 周波数 : 1.6/2/2.5/3.15/4/
5/6.3/8/10/12.5/
16 kHz

スロープ : -6、-12 dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ 0 dB/Mute
(1 dB)

位相 : NORMAL/REVERSE

MID (HPF/LPF) : 周波数 (LPF) :

1.6/2/2.5/3.15/4/

5/6.3/8/10/12.5/

16 kHz

周波数 (HPF) :

31.5/40/50/63/

80/100/125/160/

200 Hz

スロープ (LPF) :

0 (Pass)、-6、

-12 dB/oct.

スロープ (HPF) :

0 (Pass)、-6、

-12、-18 dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ 0 dB/Mute

(1 dB)

位相 : NORMAL/REVERSE

LOW (LPF) : 周波数 : 31.5/40/50/63/80/

100/125/160/200 Hz

スロープ : -6、-12、

-18 dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ +6 dB/Mute

(1 dB)

位相 : NORMAL/REVERSE

共通部

使用電源 : DC 14.4 V

(10.8 ~ 15.1 V 使用可能)

アース方式 : マイナスアース方式

最大消費電流 : 10.0 A

外形寸法

(取付寸法) : 178 (W) × 50 (H) × 162 (D) mm

(ノーズ寸法) : 170 (W) × 45 (H) × 19 (D) mm

質量 : 1.5 kg (コードユニット含まず)

付属品

コードユニット : 1

取付ネジ類 : 1式

マイク : 1

リモコン : 1

単4形乾電池(R03) : 2

取扱説明書 : 1

取付説明書 : 1

安全上のご注意 : 1

保証書 : 1

ご相談窓口・

修理窓口のご案内 : 1

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に
基づく許諾製品。

メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

3-way ネットワークモード (NW)

ネットワーク設定

フィルター	L LPF	M HPF	M LPF	H HPF
遮断周波数 (Hz)				
レベル (dB)				
スロープ (dB/oct.)				
位相				

タイムアライメント設定

スピーカーユニット	High Left	High Right	Mid Left	Mid Right	Low Left	Low Right
距離 (cm/inch)						

スタンダードモード (STD)

ネットワーク設定

フィルター	SW1 (SW2)	HPF F	HPF R
遮断周波数 (Hz)			
レベル (dB)		_____	_____
位相		_____	_____

タイムアライメント設定

スピーカーユニット	Front Left	Front Right	Rear Left	Rear Right	Sub.W
距離 (cm/inch)					

イコライザーカーブ設定

Custom2

周波数 (Hz)	50	80	125	200	315	500	800	1.25k	2k	3.15k	5k	8k	12.5k
レベル (dB)													



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口

 0070-800-8181-11

カタログのご請求窓口

 0070-800-8181-33

<ご注意> PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話、および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。
修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内
<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2002

< KMMZF/02A00000 > < CRA3284-A >